

新設の高規格幹線道 3現場を遠隔で視察

佐藤渡辺の石井社長

佐藤渡辺の石井直孝社長は、全国安全週間準備月間に合わせた安全パトロールを17日から開始した。今回は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、現地に赴かずウェブ会議システムを利用した遠隔方式で実施しており、在宅勤務の役員も自宅のパソコンから参加している。全国8支店のうち3支店が施工する

現場で実施している。

経営トップの強力なリーダーシップのもと、関係者が一丸となり現場の自主的な安全衛生管理活動をより一層推進し、安全な職場環境を形成することを目的としている。安全対策が必要な個所などを現場の社員がスマートフォンで撮影し、石井社長らが遠隔から確認している。写真。



対象現場はいずれも新設の高規格幹線道路で、17日に東北支店の「千代ノ藤地区舗装工事」、19日に関東支店の「R1中部横断道丸滝トンネル他舗装工事」で実施したほか、7月2日には四国支店の「平成31―32年度 新猪ノ鼻トンネル舗装(徳島工区)工

事」での実施を予定している。

石井社長は、「現場は新型コロナウイルスの感染防止対策を取りながら工事を継続しているが、幸い感染者の発生もなくその努力に感謝する。引き続き感染防止対策は継続していく必要があるが、最終的には自分の身は自分で守るという意識を強く持つことが重要だ」とするとともに「これからはさらに熱中症対策が求められる、現場で働く皆さんの体調管理に万全を尽くしてもらいたい。また、『現場で決めたルールは皆で守る』ことで事故防止に努めてほしい」とコメントした。

